

羊飼いの音楽「パストラーレ（牧歌）」

聖書箇所：ルカの福音書 2 章 8～20 節よりの黙想

クリスマスの季節、西欧の教会では馬小屋のクリスマス飾りが飾られ、ヨセフ、マリア、飼い葉桶のイエスキリスト、天使たち、3 人の東方の博士たち、羊飼いと羊たちの愛らしい人形が置かれます。岡本牧師をお迎えした 2021 年クリスマスキャンドルサービスでの聖書箇所、ルカの福音書 2 章 8 節から 20 節までの場面の通りを置き飾りにしたものです。

ヨーロッパの街の教会は日本と比べると建物が遥かに大きく、教会の中の様々な祭壇の前や、入り口にキリスト降誕の物語の置き飾りが飾られています。また、クリスマスに行われる子供たちの降誕劇は今や世界中でキリスト教以外の学校や幼稚園などでも行われています。国は違っても出演する子供たちは子供たちなりに配役に興奮したり、或は憤慨したり、親は衣装を作るのに様々な工夫と苦勞をして…というのもクリスマスの一つの楽しみとなっています。

その降誕劇のハイライトというべきシーンが、天の御使いが示された言葉によって羊飼いたちが羊たちを連れて馬小屋のイエス様を訪れるところです。降誕劇では星降る夜に光と共に現れた白衣の天使、羊たちを連れて馬小屋を訪れる羊飼い、馬小屋に眠るみどり子、メルヘンのような情景を想像します。

しかし聖書に書かれている羊飼いたちは貧しく、賤しめられていた人々でした。神への大切な捧げものでもあった羊たちを飼う仕事を担っていたのはそのような人々だったのです。そしてその仕事を担った人々からモーセやダビデが現れ、その子孫であるヨセフとマリアの子として生まれたイエスキリストの誕生を一番先に羊飼いが告げられました。その事に神の深い、しかし毅然としたご計画と、深い慈しみを思います。

旧約の時代から、羊飼いと音楽とは無縁ではありません。旧約のヒーローの 1 人のダビデは牧童、つまり羊飼いの少年でした。そしてダビデは音楽に長けていました。きっと少年ダビデは豎琴を抱えて美しい牧童の音楽を奏でていたことでしょう。

昔イタリアではクリスマスの時期になると、ピッフェラーリというローマ出身の羊飼いたちが、聖書に書かれた降誕の夜の羊飼いに起こった出来事にちなんで、楽器を抱えてローマにやって来ました。そして街のあちこちに置かれた聖母マリアの像の前でキリストの誕生を讃える演奏をしたのです。現在でも街の音楽家に見られます。

その時に演奏される曲が「パストラーレ（牧歌）」と言われる曲です。8 分の 6 拍子、又は 8 分の 12 拍子の緩やかなテンポの親しみやすい曲です。

絵画に描かれたピッフェラーリ達は貧しい身なりをした人々で、バグパイプに似たドローンという楽器やピッコロに似た楽器を持っています。ドローンの低音の上に、管楽器が美しいメロディーを重ねる形は、「ドローンバス（ドローンの低音）」と言われ後世に影響を与えています。降誕の夜、イエスキリストを訪ねたのはそのような姿の人々で、そのような音を奏でていたのです。

そしてその習慣は脈々と生き続け、中世の吟遊詩人たちやトラヴァトゥールなどの旅の音楽家たちにも広がり、やがてバッハなどのバロック時代の巨匠達にもインスピレーションを与えます。そしてクリスマスを表す曲に、「パストラーレ」は大きな位置を占めることになります。

バロックの時代になるとバッハのクリスマスオラトリオ、ビバルディの「四季」、ヘンデルの「メサイア」、スカルラッティの「クリスマスオラトリオ」コレッリの「クリスマス協奏曲」等々に「パストラーレ」は取り入れられています。

「オラトリオ」とは宗教曲で、「クリスマスオラトリオ」は降誕劇の「大人版」というようなものの一つです。声楽とオーケストラによるもので、言わば「歌う聖書」とでもいうものでしょうか。

バッハの「クリスマスオラトリオ BWV248」は全部で6部から出来ていて、全65曲という大曲です。この大曲の中の第2部がちょうど本日の聖書箇所の子ルカの福音書の第2章8節からの主の使いが野宿をしていた羊飼いたちのところに来て、救い主の誕生を告げるところから始まる箇所、羊飼いたちがイエス様を訪ねる部分に当たります。はじめに美しいオーケストラの曲、「シンフォニエッタ」があります。これが「パストラーレ（牧歌）」の様式で書かれている美しい曲です。

バッハの音楽は、野宿していた貧しい羊飼いたちが神様の愛によって、羊たちを連れてベツレヘムを目指す様子を「パストラーレ（牧歌）」の形で表しているのです。

また、前述のヘンデルの「メサイア」はクリスマスに演奏される音楽の中で最も有名なものの一つと言っていいでしょう。全曲通すと2時間半にもなる大曲です。その第13曲に「パストラーレ」があります。

ヴィヴァルディも代表作である「四季」の「春」の第3楽章に「パストラーレ」の様式を用いています。

またコレッリの「クリスマス協奏曲」にも「パストラーレ」楽章が含まれています。

更にベートーヴェンの最も有名な交響曲の一つ、第6番はベートーヴェン自身が表題を「田園（パストラル）」とつけました。この曲はクラシック音楽史に「標題音楽」という新しい一石を投じた曲です。それまでのクラシック音楽ではニックネームはありましたが、各曲に作曲者が具体的な題名をつけたものはありませんでした。「田園交響曲」は後の世代への先駆けとなったのです。その第2楽章は「小川のほとりの情景」という題がつけられ、8分の12拍子で、田園ののどかな風景が浮かぶような音楽です。

その一方で「パストラーレ」はその緩やかな美しさ、用いられている8分の6拍子、8分の12拍子の複雑さから、繊細な表情を持ち、それをベースに前述の旅の音楽家たちの間では「セレナーデ」や「子守歌」、「シシリアーノ」などの曲に広がっていきます。また時代を経てシュ

ーベルトの「セレナーデ」ショパンのバラード、を始めとする曲、フォーレの「シシリアーノ」などはクラシックファンならずとも耳にしているものでしょう。表面的には宗教的な色合いの無い曲、例えば「セレナーデ」は、親しい相手に夕べに戸外で聞かせる音楽、とされていますが、実はバロック時代以降は野外で演奏される宗教曲として演奏されました。また、「子守歌」は、実は西欧の音楽においては聖母子を表すと言われています。正にピッフェラーリ由来の音楽といえるでしょう。「シシリアーノ」は、もともとはイタリアのシチリア地方の音楽ですが、やはり 8 分の 6 拍子、8 分の 12 拍子が用いられています。

こうして宗教曲、世俗曲（宗教曲以外の音楽を指します）を問わずダビデに繋がる音楽は、現在の私たちにとっても親しい音楽として発展し、神様から与えられた恵みの豊かさを伝えているのです。

Zweiter Theil.

3

Am zweiten Weihnachtsfeiertage. バッハ「クリスマスオラトリオ」

Nº 1. SINFONIA.

Andantino con moto. M. ♩ = 50.

Johann Sebastian Bach
(bearbeitet von Robert Franz).

Flöte I. *p dolce*

Flöte II. *p dolce*

Clarinetten I in C. *ca*

Clarinetten II in C. *ca*



SYMPHONIE PASTORALE. ハンデル「メサイア」第13曲

Larghetto.

Nº 13.

sempre piano



III

Danza Pastorale ♩ = 200

グイッフルティ「四季-春」第3楽章



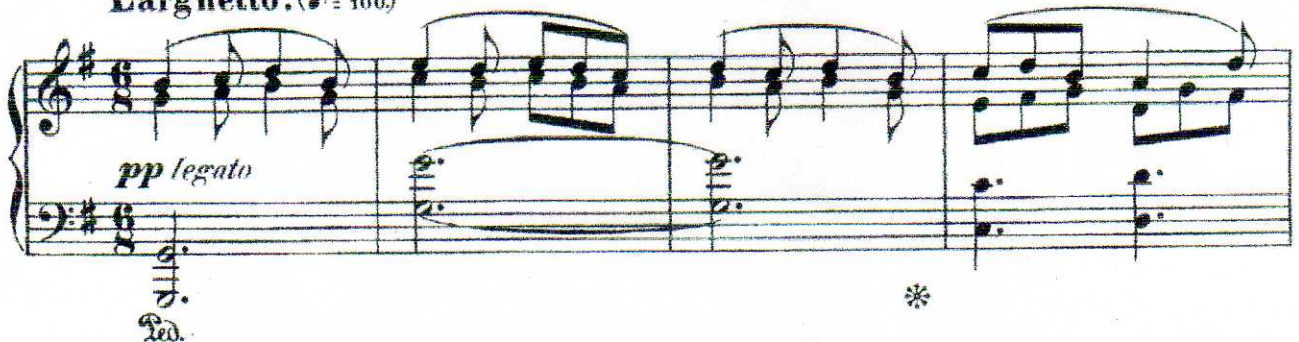
Pastorale.

コレリ「クリスマス協奏曲」

Arcangelo Corelli.
(1653-1713.)

Larghetto. (♩ = 100.)

pp legato



Symphony No. 6 in F Major, Op. 68 "Pastoral"

Scene am Bach.

ベートーヴェン / 交響曲第6番「田園」
第2楽章「小川の情景」

Andante molto moto. ♩. = 50.

Flauti.

Oboi.

Clarineti in B.

Fagotti.

Corni in B.

Violino I.

Violino II.

Viola.

Due Violoncelli soli con sordini.

Tutti Violoncelli e Basso.

pizz.

ベートーヴェン / ピアノソナタ第15番「田園」第1楽章
(参考資料)

Allegro.

SONATA.